

第 28 回大学・専門学校訪問研修会報告

10月20日(金)・21日(土)、『第28回大学・専門学校訪問研修会』を開催し、県下高等学校から保護者・教職員等66名のご参加がありました。今回の研修テーマは「日本一シリーズ」で、さまざまな分野の日本一の大学・専門学校を体感していただき、今後の各学校の進路指導の充実に役立てることを目的に実施しました。今回選んだのは、大阪公立大学(杉本キャンパス)、近畿大学(東大阪キャンパス)、大阪工業大学(大宮キャンパス・梅田キャンパス)、辻調理師専門学校の4校です。教育内容や入試、就職の状況などそれぞれの学校の特色や魅力などの説明に続き、学内の施設を見学したり、学園祭の模擬店での昼食を撮らせていただくなど、キャンパス生活の一端を直接体験したりしながら、訪問大学等についての知見を深めることができました。各大学等の研修の様子は以下のとおりです。

大阪公立大学

10数年ぶりに実現した国公立大学の訪問校は、令和4年度に大阪市立大学と大阪府立大学が統合して誕生した、統合校としては日本一新しい大阪公立大学です。5つのキャンパスに合わせて12学部・学域を設置し、入学定員は大阪大学、東京大学に次ぐ国公立大学第3位の規模を誇る全国最大の公立大学です。

大学に到着後、すぐに正門前で記念写真を撮り、その後学術情報総合センターに移動して大学の広報担当者から大学の概要説明を受けました。巨大な大学であるにも関わらず教員一人あたりの学生数が8.2人と、きめ細かく質の高い教育を実現するための少人数指導を実践していることや、予測不能な時代を生きるため「専門知」を深めながら他領域と融合して生まれる「総合知」を大切にしていること、1年次に全学生が必修科目として主体的に学ぶ姿勢を身に付ける「初年次ゼミナール」を開講していることなど、数多くの学びの特色を紹介されました。さらに令和7年秋には全学部の1年生が一緒に学ぶ森之宮キャンパスが開設される見込みで、統合によるスケールメリットを生かした「総合知」を重視しながら、大阪のみならず日本や世界の「知の拠点」を目指す大学の強い熱意を感じ取ることができました。

その後、杉本キャンパス内を自由に見学しました。平日だったのでキャンパス内では多くの学生の活動の様子を見ることができ、落ち着いた中にも活気にあふれた大学を体感することができました。正門前の芝生広場で談笑したり飲食したりする学生に混じって弁当を食べたり、学食を利用する参加者もいて、つかの間の大学生活を体験することもできました。



大学の説明に聞き入る参加者の皆さん



全国一を紹介するスライド

近畿大学

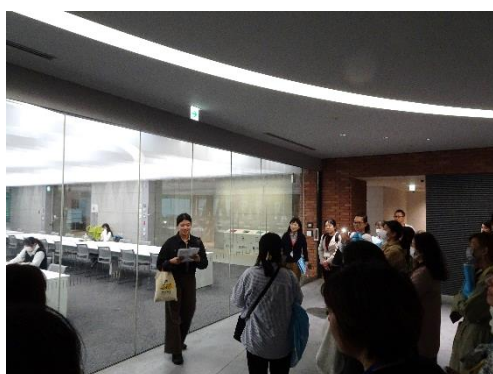
初日の2校目は、大阪府東大阪市の近畿大学東大阪キャンパスです。現在、2025年の創立100周年を見据え、同キャンパスの大規模整備計画「超近大プロジェクト」を進めており、訪問中も各所で行われている建設工事を見ることができました。近畿大学といえば一般入試の総志願者数が10年連続日本一に輝いたことで有名で、15学部49学科を有するまさに日本最大級の総合大学です。



学生による大学の概要説明では、志願者数だけでなく世界大学ランキングで全国私大1位であることや、クロマグロの完全養殖をはじめ世界をリードする研究の数々、企業や地域と連携して研究・開発ができる最先端の施設などが紹介され、大学の圧倒的なスケールを実感できました。

キャンパス見学は6名の学生により3班に分かれての案内でした。近畿大学独自の施設である「ザ ガレージ」、「アカデミックシアター」、「英語村」の3つの施設を見学しました。「ザ ガレージ」は大学と地元企業が垣根を越えてアイデアを出し合って新たな価値を生み出すモノづくり拠点です。3Dプリンターなど数多くの機械が設置されていて、学生は自由に使用できるそうで、ここで開発されたさまざまなユニークな新商品が展示されていました。「英語村E³ [e-cube]^{イーキューブ}」は、英語で外国人講師との交流やアクティビティができる施設ですが、楽しみながら英語力を向上させたり異文化交流もできる施設です。圧巻の施設は「アカデミックシアター」で、学部や文理の垣根を超え社会の諸問題を解決に導く学術拠点です。先述の「ザ ガレージ」もその一施設ですが、その他にも7万冊もの一般図書や漫画などを配置した図書スペースのビブリオシアターや、企業や地域の方と共同研究などができる42か所のガラス張りのACTと呼ばれる施設も備えられています。まさに文理融合の「実学拠点」にふさわしい施設でした。

どの施設も魅力的で開放的な印象があり、ゆったりとキャンパスライフを楽しんだり、積極的に研究やものづくり、イベント開催などに取り組む学生の姿が印象的でした。



24時間利用可能な女性専用の自習室



新製品を次々に生み出す「ザ ガレージ」

辻調理師専門学校

二日目の1校目は、大阪市阿倍野区の辻調理師専門学校です。「料理界の東大」を標榜し、「世界三大料理学校」の一つにも数えられる専門学校です。学校を運営する辻調グループにはフランス校など5つの学校や2つの技術研究所が設置され、辻調の卒業生は14万人以上に上るまさに日本を代表する調理師学校です。2024年度には辻製菓専門学校の

製菓関連2学科が設置され、また、東京学芸大学構内に「辻調理師専門学校 東京」が開校される予定で、今後さらなる飛躍が期待されています。

学校の概要説明をされた雲崎氏は、香川県のご出身で高松北高校の卒業生だそうです。弁舌さわやかに学校の魅力や各学科の特徴などについて詳しく説明していただきました。特に印象的だったのは、プロ仕様の設備が揃う実習室で一流の先生方や特別講師からきめ細かな指導が受けられることやフランスへの留学制度が整えられていること、世界各地で活躍されている卒業生が卒業後も刺激し合って成長し続けていることなどでした。



学校説明の後、日本料理の講習会がありました。テレビの料理番組でも活躍されている著名な先生がかつお節と昆布の一番だしや紅葉鯛の蓮蒸しの作り方を実演され、完成後は試食までさせていただきました。実演中のトークも大変分かりやすくユーモアに富み、女性の参加者からは質問も相次ぐなど大変有意義な研修の場となりました。

試食までの間の料理を準備していただく間に、学生たちが普段実習を行っているプロ仕様の施設・設備を見学しました。料理の種類に合わせた実習設備が完備されているだけでなく、食器から調理用の小物まであらゆるものが一流のプロ仕様で整えられていて、まさに「活躍するプロを生む辻調」にふさわしい教育環境を実感することができました。



2分間で鯛を3枚におろす実演



プロ仕様の施設・設備が整った実習施設を見学

大阪工業大学

今回の訪問研修の最後は、OVER THE LIMIT（限界を超える成長がある）をスローガンに掲げる大阪工業大学です。全国屈指の大工業地帯へと変貌する大阪を支える即戦力の技術者を輩出してきた大学ですが、現在、日本で唯一の知的財産学部を設置するとともに、関西の私立大学で実就職率が14年連続トップと開校以来の専門職業人育成の理念が脈々と受け継がれている大学です。



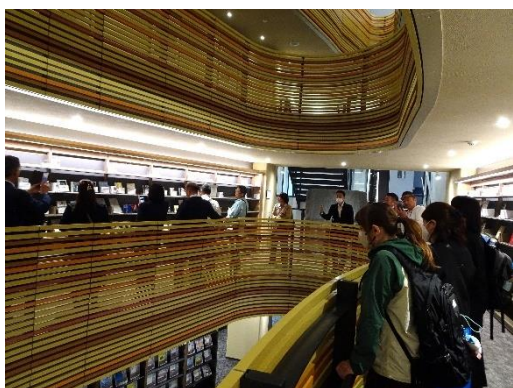
まず、大宮キャンパスに到着すると、前日から開催されていた大学祭「城北祭」の模擬店で自由に昼食を摂りました。お好み焼きやたこ焼き、焼そばなど、思ったよりメニューは少なかったですが、思い思いに大学の雰囲気を楽しみながらの昼食となりました。

大学の概要説明の場では、いきなり芸人風の学生2人によるトークショーがあり、そ

の後、大学職員による説明がありました。特徴的なのは、①100年超の挑戦の歴史、②関西トップの超就職率、③限界を超えて成長できる「学部学科」と整理されていたように、限界を「超」えるというスローガンに基づく学校づくりでした。世のため、人のため、地域のための専門職業人を育成するという建学の精神に基づき 11 万人もの卒業生を送り出していることや、有名企業 400 社への実就職ランキングでは関関同立に次ぐ関西 5 位であること、入学から卒業までに大きく成長できる教育力の高さなどが印象に残りました。また、日本で唯一の知的財産学部は、新しい技術やデザインなどの知的財産を守る専門家を育成する学部で、今後ますます重要性が高まるものと思われました。

施設見学では、吹き抜けのある開放的で芸術的な図書館や、学園祭で展示・紹介されていた学生中心の4つのプロジェクト（「人力飛行機」「ロボット」「学生フォーミュラ」「ソーラーカー」）も見学することができ、限界を超える成長のための充実した施設・設備など教育環境のすばらしさを実感しました。

その後、見学場所を大阪梅田の中心地にそびえる梅田キャンパスに移しました。6年前に整備された地上 21 階地下 2 階、高さ 125m の西日本一を誇る都市型タワーキャンパスです。立地をさることながら、新時代を創出する「ロボティクス&デザイン工学部」にふさわしい最新設備を備えたキャンパスに圧倒されっ放しでした。



吹き抜けのある図書館（大宮キャンパス）

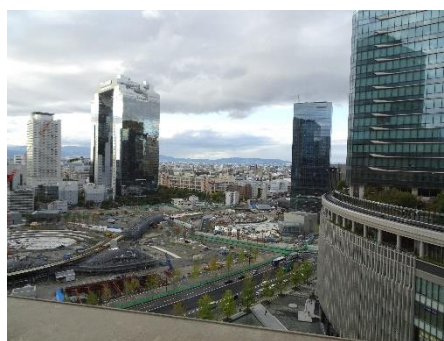


最先端の研究設備を見学（梅田キャンパス）

研修会のまとめ

今回の研修会は、4校ともにさまざまな分野の日本一だけあって、学校説明も施設見学も大変充実した研修が実施できたと考えています。ただ、初日は早朝に出発したこともありゆとりのある研修ができましたが、2日目はタイトなスケジュールとなり、変貌する大阪を体感していただこうと考えていた梅田再開発の視察研修が実施できませんでした。楽しみにしていた買い物の時間も十分に確保できず、参加者の皆さんに大変ご迷惑をおかけしました。

この大学・専門学校訪問研修会は 28 回目を数え、研修を通して参加者相互の親睦、各校間の情報交換や連帯を深めることも大切な目的として継続してきました。しかしながら、社会情勢の変化等により従来通りの企画や方針では限界があることも明らかとなってきました。来年度以降の予定については未定ですが、より一層充実した研修の場となるように検討してまいりますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



JR 大阪駅のルクア屋上から望む
梅田再開発の様子